

農作物等の寒害及び雪害の被害防止に向けた技術対策

令和5年1月20日
南筑後普及指導センター

【施設】

- (1)暖房機及び燃料タンクの点検を行い、故障や稼働中の燃料切れが起こらないよう随時点検を行う。
- (2)被覆フィルムの隙間、破損を点検し、補修を行う。
- (3)かん水施設は、管内の水を抜き、水栓を被覆資材で覆うなどの凍結防止対策を行っておく。特に、ポンプの凍結に注意する。
- (4)強風が予想される場合は、フィルムの浮き上がり防止にマイカー線の増し締めと本数の追加、防風網での被覆を行う。ただし、降雪開始した場合は防風網を撤去する。
- (5)大雪が予想される場合は、応急補強用の支柱、筋交いなどをあらかじめ用意しておき、降雪開始と同時に直ちに取り付ける。単棟ハウスでは中央部に木や竹で支柱を立てる。また、連棟ハウスでは谷部に雪が溜まり倒伏しやすいので谷部を補強する。
- (6)暖房機がある場合は、降雪開始と同時に設定温度を高めて内カーテンを開き、屋根を暖めて雪の自然落下を促進させる。
- (7)暖房機が稼働しても、外気温が急激に低下すると室温が低下するおそれがあるため、室温の確認を行い、生育に必要な温度を確保できるよう、暖房機の温度設定を行う。
- (8)降雪し始めたらハウスの見回りを行い、早めに雪下ろしを行う。遅れるとビニルがゆるみ雪の滑落が困難になる。雪下ろしは両側から行う。
- (9)谷やサイドの自動換気用巻き上げが凍結している状態で、急にハウス内温度が上昇した場合、自動換気装置が稼働し、無理に巻き上げようとしてモーターが故障したり、ビニルが破損したりするので、手動に切り替えておく。
- (10)無加温ハウスの場合は、施設の気密性を高め、内カーテンを開放し、地熱の輻射によって室温の上昇とそれによる屋根雪の滑落を図る。

【果樹】

- (1)カンキツでは成熟期に達しているものは直ちに収穫する。低温に遭遇する回数が多いほど果実の苦みは増加する。また、時間の経過により、す上がりも発生する。寒害を受けた園では収穫して貯蔵を行い、出荷の際に被害果が混入しないように留意する。樹体は寒冷紗、不織布等で保護し、寒風による落葉被害を軽減する。
- (2)貯蔵中のカンキツも低温障害を受けることがあるので、温度管理に注意する。
- (3)ビワは、房や枝を防寒資材で被覆する。
- (4)イチジクなど耐寒性の劣る樹種については、ワラや防寒用被覆資材等で主枝や主幹部を保護する。
- (5)幼木は樹種を問わず耐寒性が劣るため、ワラや防寒用被覆資材で主幹部を中心に保護する。
- (6)カンキツの苗木は寒害を受けやすいため、特に耐寒性が低い「不知火」、「西南のひかり」、レモン、ライム等は、必要に応じて防寒用被覆資材で被覆する。
- (7)防鳥ネットに積もった雪の重みで支柱や棚等が倒壊する恐れがあるため、ネットの片

づけが終わっていない園では早急に除去する。

- (8)積雪により枝が裂けた場合は、欠損部で切除し保護剤を塗布する。主枝の分岐部など大枝が裂けた場合はボルト止めする。
- (9)寒害を受けた園では、今後、落葉や枝の枯れ込みが予想される。せん定程度は、落葉や枯れ込み状況に応じて調整する。

【露地野菜】

- (1)冷害や低温障害のおそれがあるので、降雪前に収穫可能なものはできるだけ収穫する。
- (2)寒風害の対策として季節風の吹く風上や圃場周囲に防風ネット等を作る。
- (3)べたがけ資材などで保温する。
- (4)トンネル栽培では降雪し始めたら早めから除雪を行う。
- (5)雪解け水の排水に努め、湿害に注意する。
- (6)雪解け後は地上部病害について早期防除を徹底する。

【畜産】

- (1)中山間及び山間地の積雪量が多い地域は、水道や給水器の凍結防止に努める。
- (2)寒風は家畜の体感温度を下げるため、寒風が直接家畜に当たらないようにカーテンや防風ネットを設置する。特に、幼畜は低温に弱いため、牛では敷料を厚くして哺育房の3方をコンパネ等で塞ぐ、**カーフジャケットの着用、暖房器具の設置等**、哺育温度に留意する。また、子豚や雛は給温器による温度確保を行う。